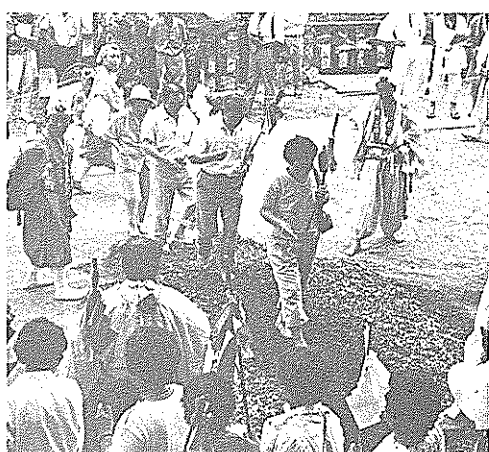




▲ 煩惱を消し生まれ変わる「火渡りの儀式」
▼ 願いを書いた護摩木を一つ一つ火の中へ



勇壮に火渡り儀式 大護摩祈願祭

◇十市石土神社大祭◇

十市石土神社の大祭が七月一日から十日まで開かれました。

石土神社は今から千二百年ほど昔からある出緒ある神社で、愛媛県石土神社を奥の院となえ、当社は前の宮と呼ばれています。

一日は「お山開き」。午前九時、

ホラ貝の音が境内に響き、太鼓が打ち鳴らされ、信者ら約百人が見守る中、伝えられてきた作法にのっとり神殿から四体のご神体を取り出し、修験行者が背負って神社裏の石土山の「天土」に移しました。信者もそれに続き、ご神体を頭や肩、腹などに当ててもらい、無病息災の加持を受けていました。

六日は無病息災、家内安全など

を願う大護摩祈願祭。県下各地から修験行者や信者らが集まって境内は最高のにぎわい。

午後一時、ホラ貝の響きとともに装束に身を包んだ修験行者が、儀式に従います。道場を清め、護摩に火が入れられました。そして、信者らの願いが書かれた護摩木約一万本を修験行者がその願いを読み上げ一つ一つ投げ込みました。真っ赤に燃え上がる炎、そして錫杖が境内に響き渡り、火祭り最高潮。

護摩木がすべて焼かれた後は「火渡りの儀式」。これは、煩惱やけがれを消し、清浄な体に生まれ変わることを意味するそうで、まず修験行者が気合いとともに渡り、それに続いて一般の参拝者らも次に渡っていました。

東宮御所へ ヤマモモを贈る

皇太子ご一家に新鮮な土佐の味を。今年も七月三日、市長から東宮御所にヤマモモが贈られました。

これは、昭和五十一年七月、高知県で開かれた全国自然公園大会の際皇太子ご夫妻が来高されたのを機会に、市の

木であり市の名産でもあるヤマモモを贈ったのが始まりで、今年で十回目になります。

この日贈られたヤマモモは、白木谷の岡崎義明さん方のもぎたての「魚蔵」で、午前九時十五分発の全日空五六四便のステューデス井上貴代さんらに市長から手渡され、昼前には東宮御所に運ば



もぎたてのヤマモモを手渡す小笠原市長

市長は「毎年楽しみにされていると伺っており、ありがたいことです」。また岡崎さんも「これからできるだけかぎり続けさせていただきたい」と話していました。